

省エネ・節電実行計画 [H30年度 夏季] の結果報告

(実施期間: 6月1日から9月30日)

◇エネルギー消費原単位削減目標 【前年度比 夏季実績 1%以上削減】

平成29年度実績

平成30年度実績

- ① 東山地区 18.47 L/m² ⇒ 19.27 L/m² **4.3%増** 目標未達成
- ② 鶴舞地区 28.07 L/m² ⇒ 27.35 L/m² **2.6%減** 目標達成
- ③ 大幸地区 6.49 L/m² ⇒ 6.64 L/m² **2.4%増** 目標未達成

⇒各団地の夏季月別エネルギー消費原単位の推移は右図を参照

◇契約電力に対する最大電力実績

契約電力

平成30年度実績

- ① 東山地区 17,248 kW ⇒ 19,096 kW (契約電力の **110.7%**)
- ② 鶴舞地区 8,375 kW ⇒ 8,982 kW (契約電力の **107.2%**)
- ③ 大幸地区 474 kW ⇒ 506 kW (契約電力の **106.8%**)

◇名古屋大学全体における夏季エネルギー消費について 【前年度比】

エネルギー消費量 553,901 GJ ⇒ 579,951 GJ **4.7%増**
 エネルギー原単位 20.48 L/m² ⇒ 20.72 L/m² **1.2%増**

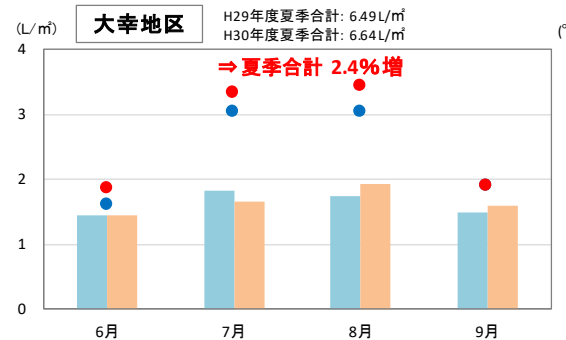
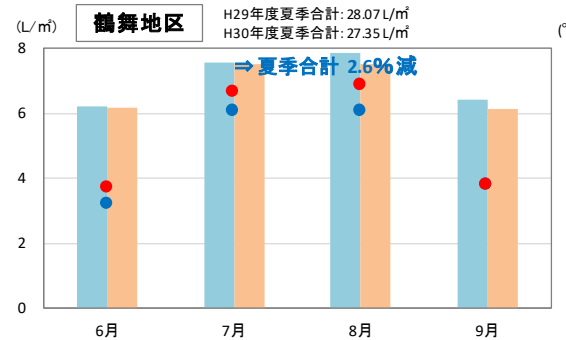
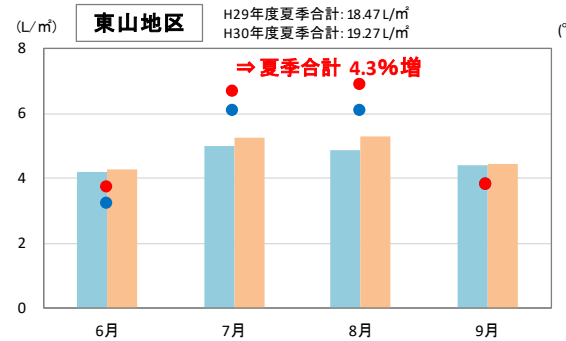
※ 東山、鶴舞及び大幸地区の合算値 (3地区合計で大学全体エネルギー消費の約99%)

◇夏季実績に関する考察

- ・前年度夏季の猛暑日(最高気温35℃以上)が3日であったのに対し今年度は36日あり、全体的にエネルギー消費量、エネルギー原単位が増となっている。
- ・東山地区においては、猛暑に加えてC-TEFsの稼働により原単位が4.3%の増となっている。
- ・鶴舞地区について、一次エネルギー消費量が増加しながらも原単位が減少している要因は、中央診療棟Bの面積が増加したが稼働率は半分以下にあることによる。中央診療棟Bを除外すると原単位は28.84L/m²であり2.7%の増加となる。
- ・7月中旬の最初に猛暑日が続いた3連休明けの平日(7/17)に東山および鶴舞地区では契約電力が最大となった。
- ・前年度オープンキャンパス初日に契約電力が超過したことから、以下の対策を行った。
 - ・情報基盤センターでは、7月、8月にかけてスパコンを29%、オープンキャンパス期間には36%の縮退運転を行った。
 - ・工学部では7/11、8/8にピーク時間帯のドラフトチャンパの使用抑制キャンペーンを実施し、通常運転時から約111kW(推計値)の電力抑制を行った。
 - ・理学部では8/8、8/15に節電日を実施し、日平均1,270kWh(理学部の通常日より3.4%)のエネルギーを削減した。

月別エネルギー消費原単位

■ H29年度原単位 ■ H30年度原単位
 ● H29年度平均気温 ● H30年度平均気温



一次エネルギー消費量

■ 電力 ■ 都市ガス ● 平均気温

